

Fuji Champion Race Series Round 1

2020.7.4 SAT

SILVIA・ALTEZZA/NA1600/MR2

AE86/AE111

Round 1



シルビア・アルテツァ /MR2/NA1600/AE86/AE111第1戦は、雨の中予選が行われ、各クラストップタイムを出したのはAE111 18 遠心ACRE塩岡スピードレbin 塩岡雅俊 2'12.320。NA1600 は37 四季の森歯科IDIウイナー 86 秋元優範 2'14.622、シルビア 15 S15シルビア山崎浩明 2'15.974、AE86 240 ガレーシアネックス・μ・レbin 山口崇 2'17.668、MR2 78 ダイエーモータースDXLMR2 谷田伸行 2'25.205といった結果。スターティンググリッドはNA1600が先頭になるのでポールポジションはNA1600 37 秋元。決勝レースも雨の中、スタートが切れ直後のTGRコーナーに37秋元がトップで進入するも、その先のコカ・コーラコーナーでは15 山崎が先頭に立つ。1周目を終えストレートに戻ってくると、かなりの雨量。その中を15山崎は徐々に後続のマシンとの差を広げ、次々とファステストラップを更新しながら2番手に52秒の大差をつけて総合優勝で開幕戦を飾った。レース後各クラス優勝ドライバーのコメント。シルビア 15 山崎「まずこんなコロナ騒動の中でも開催してくれたサーキットに感謝します。ソーシャルディスタンスでピットガレージが2台だけなので使いやすいけれどちょっと寂しいですね。今年また続けてレースが開催されてくれるようにと願っています」MR2 78 谷田「他のクラスとのバトルが出来て、気を付けながらも楽しいレースでした。今シーズンはもう一台くらい出てくれる可能性もあるので開催されるようにと願っています」AE86 240 山口「路面状況がかなり変わって途中から大雨、その後雨は上がりかけたけれど風でマシンも揺れて怖いくらいでした」NA1600 37 秋元「スリックで行ったから最初はタイヤが温まらなくて大変でした」AE111 18 塩岡「予選も上手くいって久しぶりに勝てました。とても嬉しいです」と語った。

**RESULT リザルト AE111**

Rank No.	Name
1	18 塩岡 雅俊
2	91 船木 周一

**RESULT リザルト AE86**

Rank No.	Name
1	240 山口 崇
2	39 志村 忍
3	41 中村 徹

**RESULT リザルト MR2**

Rank No.	Name
1	78 谷田 伸行
2	20 木邨 一吉

**RESULT リザルト NA1600**

Rank No.	Name
1	37 秋元 優範
2	31 高橋 賢一

**RESULT リザルト SILVIA・アルテツァ**

Rank No.	Name
1	15 山崎 浩明
2	45 渡辺 博人

FCR-VITA Round 1



予定より2か月遅れて始まった今シーズンの富士チャンピオンレース。開幕戦最初のレースはFCR-VITA第1戦。雨の中で始まった予選では途中からかなりの雨量と強風になり、コースオフするマシンも続出し、最後は赤旗中段のまま終了となってしまった。厳しいコンディションの中でトップタイムを出したのは55 RaiseUP Vita01 小西 岬の2'30.879。2番手には、38 LHG Racing YLT 三浦 愛 2'32.432。3番手に2 フコースEDニルズMPVITA イノウエ ケイイチ 2'33.106。10:35スタートの決勝では各マシンがグリッドに整列した頃から雨が酷くなり、SCスタートに変更。SCの先導のもとレースが開始された。雨が落ち着いてきた3周目にSCがピットへ入りレースが始まると、#55小西がトップを守りレース前半はその後ろで2番手争いを#38三浦 #2イノウエと4番手スタートの13 ORC VITA遠藤浩二が繰り広げる。雨量が刻々と変わりコースオフするマシンも多くなってきた中で8周目に13 遠藤が表彰台圏内の3位に上がり9周目にはファステストラップの2'23.394を出しながら2位のポジションに猛迫するが10週の決勝レースは#55 小西が優勝、2位に38 三浦、3位 遠藤の順でチェッカーを受けた。優勝ドライバー 55 小西のコメント「難しいコンディションの中でしたが、予選から良い方向でした。マシンをセットアップしてくれた皆に感謝です。10年かかっての初優勝をここに見に来てくれた父親にも見せられてとても嬉しいです」と語った。

RESULT リザルト FCR-VITA

Rank	No.	Name
1	55	小西 岬
2	38	三浦 愛
3	13	遠藤 浩二
4	2	イノウエ ケイイチ
5	14	下垣 和也
6	37	翁長 実希

KYOJO CUP Round 1



KYOJO CUP開幕戦、今回は1Dayで行われているためにFCR-VITAが午前中に予選・決勝が行われ、KYOJOが午後後に予選・決勝というハードスケジュールになった。予選はウェットコンディションの中で行われ、終盤でトップタイムを出したのは38 LHG Racing VLT 三浦 愛 2'03.976。フロントローには今回がKYOJO初出場の86 Dr.DRY.VITA 猪爪 杏奈 2'04.538、3番手には87 おさきにどうぞVITA 山本 龍 2'04.757となった。この日の最終レースとなった決勝では各マシンがグリッドについた時にはそれほど降っていない雨もスタートと同時に土砂降りになる難しいコンディション。そのような中でオープニングラップのアドバンコーナーで4番手スタートの37 Keeper VITA 翁長実希がトップに立つ。さらに天候悪化で3周目にはSC導入、4周目には赤旗が提示、各マシンはストレート上に一列に並びレースは中断、提示から約30分後にSC先導で再スタートとなり2周を周回した後にSCが入る。再スタート後はトップの37 翁長は後続に差をつけてトップを快走、2番手には予選5番手から徐々にポジションを上げてきた712 恒志堂レーシングVITA712 RINA ITO。ラストラップまで競い合った3番手争いは0.04秒差で38 三浦という結果になった。レース後38 翁長のコメント「マシンのセットがばっちり合いました。ドライのセッティングしかできていなかったのでタイミングを合わせるのは苦戦しましたが」と語った。

RESULT リザルト KYOJO CUP

Rank	No.	Name
1	37	翁長 実希
2	712	RINA ITO
3	38	三浦 愛
4	11	齋藤 愛未
5	36	荻原 友美
6	13	辻本 始温

2020 インタープロトシリーズ 第1戦・第2戦 レポート

Inter Proto Series
Round 1-2
Gentleman Driver



インタープロトシリーズの ジェントルマンクラス、開幕戦は第1戦と第2戦を Proクラスと同じように続けて行うスケジュールになっている。第1戦のスターティンググリッドを決める予選でトップタイムだったのはIP Eクラス32 NETZ NOVEL MIE 永井秀貴 2'02.946、フロントローにはGクラストップの55 人馬 一体ドライビングアカデミー 寺川 和 紘 2'03.449。CCS-Rは5 NTP RACING NN CCS-R 今井孝 2'05.449となった。決勝スタート時には雨が多くなってきて、SCスタートでレースがスタートされた。トップの32永井にコマ差で追いかける55 寺川だったが12分の決勝5周でチェッカーとなった。ここでトップの32 永井が痛恨のミスでダブルチェッカーを受けてしまう。続く第2戦のグリッドは32永井は最後尾からのスタートとなった。第2戦では55寺川とEクラス44 NTP RACING IPS 山口達雄のトップ争いから始まるが最後尾から猛追してきた32 永井が6周目にはトップに立ち15分の第2戦は8周でチェッカーとなった。各クラス優勝ドライバーのコメントIP E 32永井「路面コンディションもウェットからドライ、またウェットになったりした上にコース上のオイルもあって怖かったです」IP G寺川「ほぼ初めてのレースでスーパードキドキでした。総合優勝したかったですね」CCS-R 10 NTP RACING PN CCS-R天野 雅仁「雨とオイルで怖かったです、優勝できて嬉しいです」

Round 1

IPS-Expert



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	32 永井 秀貴
2	44 山口 達雄
3	37 大蔵 峰樹
4	3 FLYING RAT
5	16 渡邊 久和

IPS-Gentleman



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	55 寺川 和紘
2	8 けんたろ
3	7 とおる君
4	88 八木 常治

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	5 今井 孝
2	51 卜部 治久
3	10 天野 雅仁
4	87 疋田 亮

Round 2

IPS-Expert



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	32 永井 秀貴
2	44 山口 達雄
3	16 渡邊 久和
4	37 大蔵 峰樹
5	3 FLYING RAT

IPS-Gentleman



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	55 寺川 和紘
2	8 けんたろ
3	88 八木 常治

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	10 天野 雅仁
2	87 疋田 亮

Inter Proto Series
Round 1-2
Professional Driver



イントロシリーズプロフェッショナルクラスはウェットコンディションの中で予選が行われ、44 NTP RACING IPS 平川亮が1'58.956でトップタイム。フロントローには3 INGING MOTORSPORT 阪口晴南が1'59.435で並ぶ。CCS-Rでは87 NTP RACING NC CCS-R 松井孝允が2'02.766でトップ。第1戦スタート時にはストレート上の雨は上がったもののコース上はレコードラインだけ乾き始め、所々にオイルの跡も残っている難しいコンディション。オープニングラップでトップに立った3 阪口、しかし2周目には44 平川が取り戻すレース展開。5周目には3番手から上がってきた32 NETZ NOVEL MIE坪井翔がトップに立ち8週の決勝はそのまま32 坪井が優勝、2位には最後尾から追いついてきた16 ララルバール Ronnie QUINTARELLIが入った。続く第2戦ではグリッドについているときに雨が落ちてきて、またしても難しいコンディションに。その中を快走する32坪井、その後ろにはやはり第1戦から徐々に順位を上げてきた37 キーパー号 福住仁嶺がついてきたが32 坪井は8週のレースでトップをまもりそのままチェッカーを受けた。2位は37 福住、3位が16 Ronnieという結果。CCS-Rは第1・2戦とも87 松井が逃げ切って優勝。レース終了後32坪井は「大変でした！マシンはウェットよりドライのほうが調子が良かったのでドライのセッティングでいけて良かったのですが1レース目はそのセッティングでトップを守るのはきつかったです。でもその中で勝てたのはとても嬉しい」と話し、87 松井は「スタートは守りに入りすぎて先輩方にあおられました。途中、降ったりやんだりと難しかったのですが無事に走り切りました」と語った。

Round 1

IPS-Professional



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	32 坪井 翔
2	16 Ronnie QUINTARELLI
3	3 阪口 晴南
4	37 福住 仁嶺
5	44 平川 亮
6	8 宮田 莉朋

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝允
2	10 片岡 龍也
3	5 阪口 良平

Round 2

IPS-Professional



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	32 坪井 翔
2	37 福住 仁嶺
3	16 Ronnie QUINTARELLI
4	44 平川 亮
5	8 宮田 莉朋
6	3 阪口 晴南

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝允
2	10 片岡 龍也
3	5 阪口 良平